

土居内遺跡 ー古代の村と橋ー





← 亀田駅

↓ 新津丘陵

江南区役所

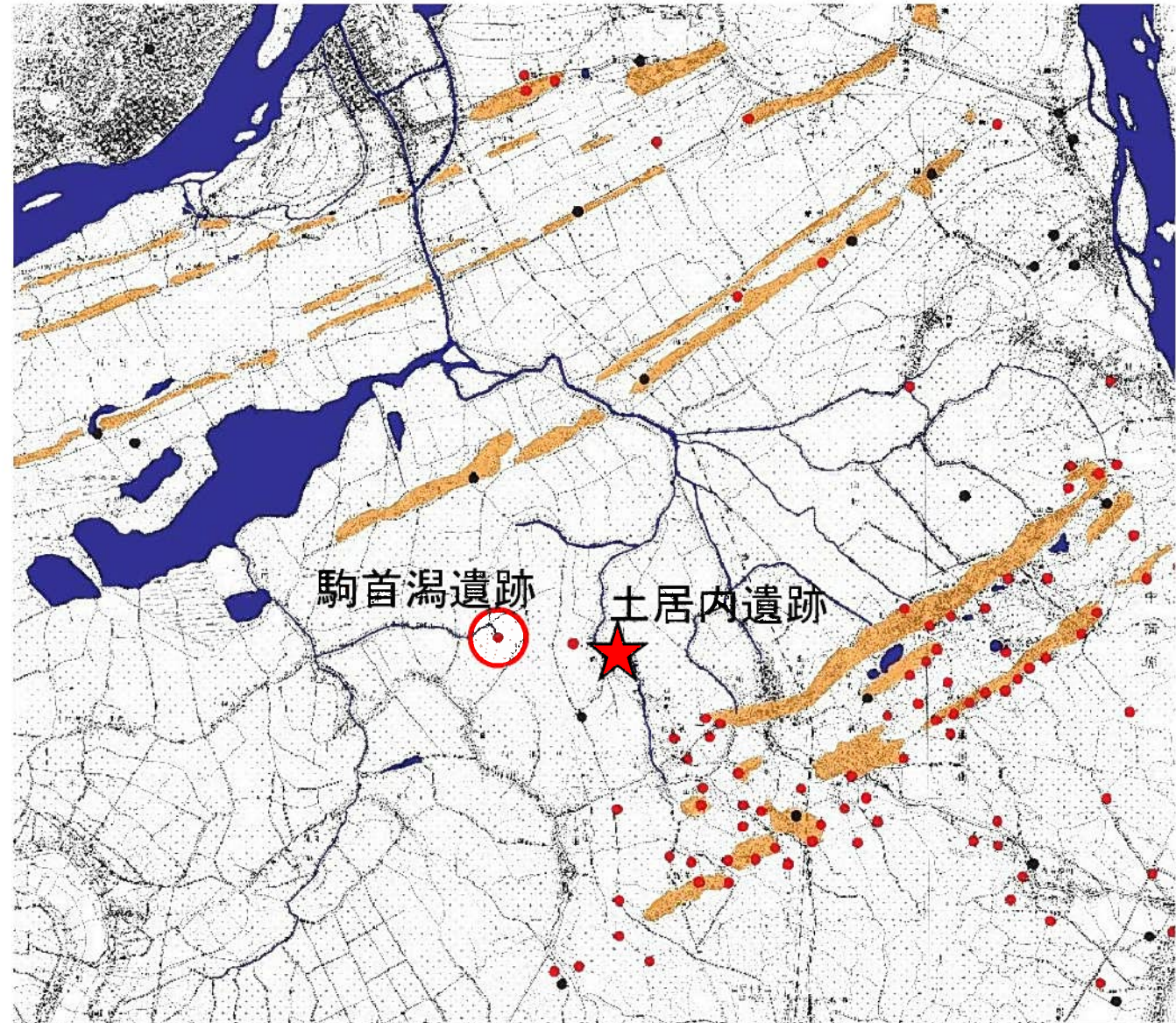
鶉ノ子IC →

土居内遺跡周辺の遺跡分布

土居内遺跡南方の砂丘上では、多くの遺跡が見つかっています

赤い● : 古代を含む遺跡
黒い● : それ以外の遺跡

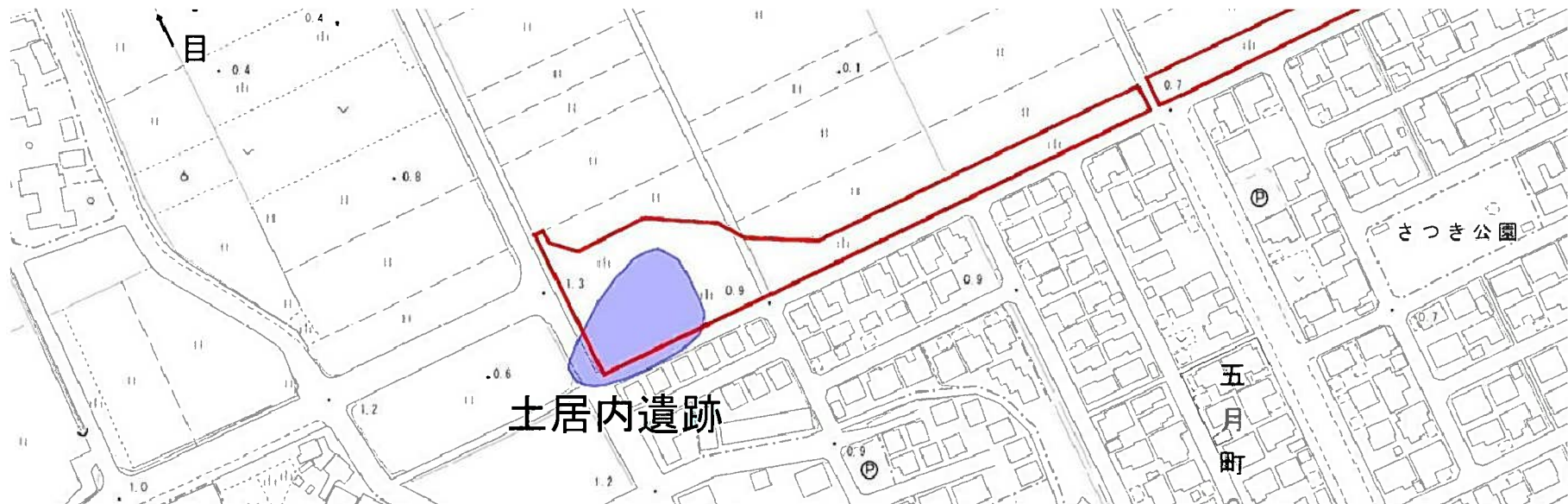
橙色 : 砂丘推定範囲
青色 : 河川・湖沼



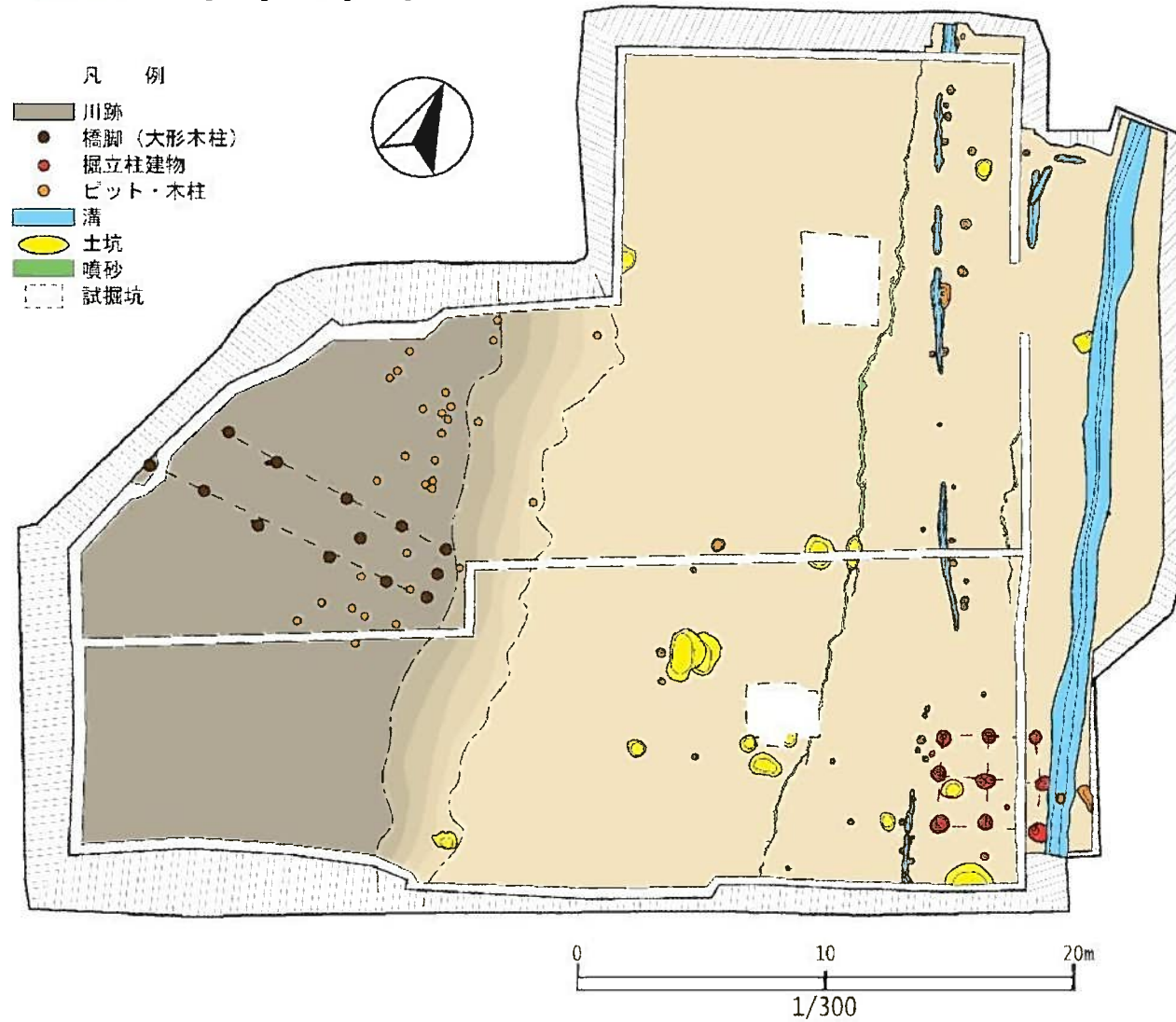
明治44年測図昭和6年修正
陸軍測地部作成五万分一地形図を加工

土居内遺跡の調査までの経緯

- ①市道亀田252号線整備事業に伴い、
工事予定地に遺跡がないか事前調査を行った（試掘調査）
予定地の西側で遺跡が新発見され、
小字名から、土居内遺跡として周知化
- ②遺跡の範囲や深さを明らかにするため、
追加の調査（確認調査）を行い、
遺構や遺物が改めて確認された
- ③今年度に市道予定範囲で本格的な調査を行う（本発掘調査）



土居内遺跡平面図



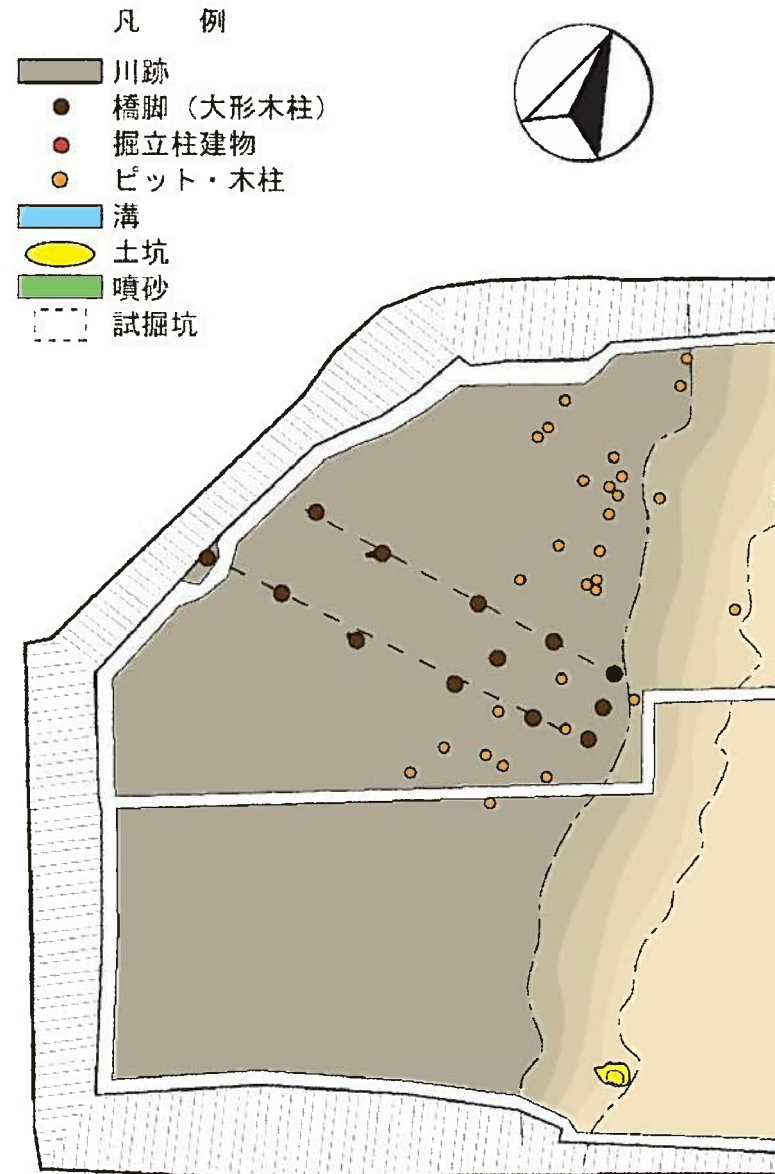
※ピット・木柱・橋脚は
分かりやすくするためドットで表現しています

調査地西側

調査地西側では
川跡と橋脚、杭列が見つかりました

標高が低くなっていて、
水が集まるうえ、
川跡からは水が湧いてくるため
調査で最も大変なエリアでした。

雨が降ると水がたまってしまい、
当時の面影をうかがえます。



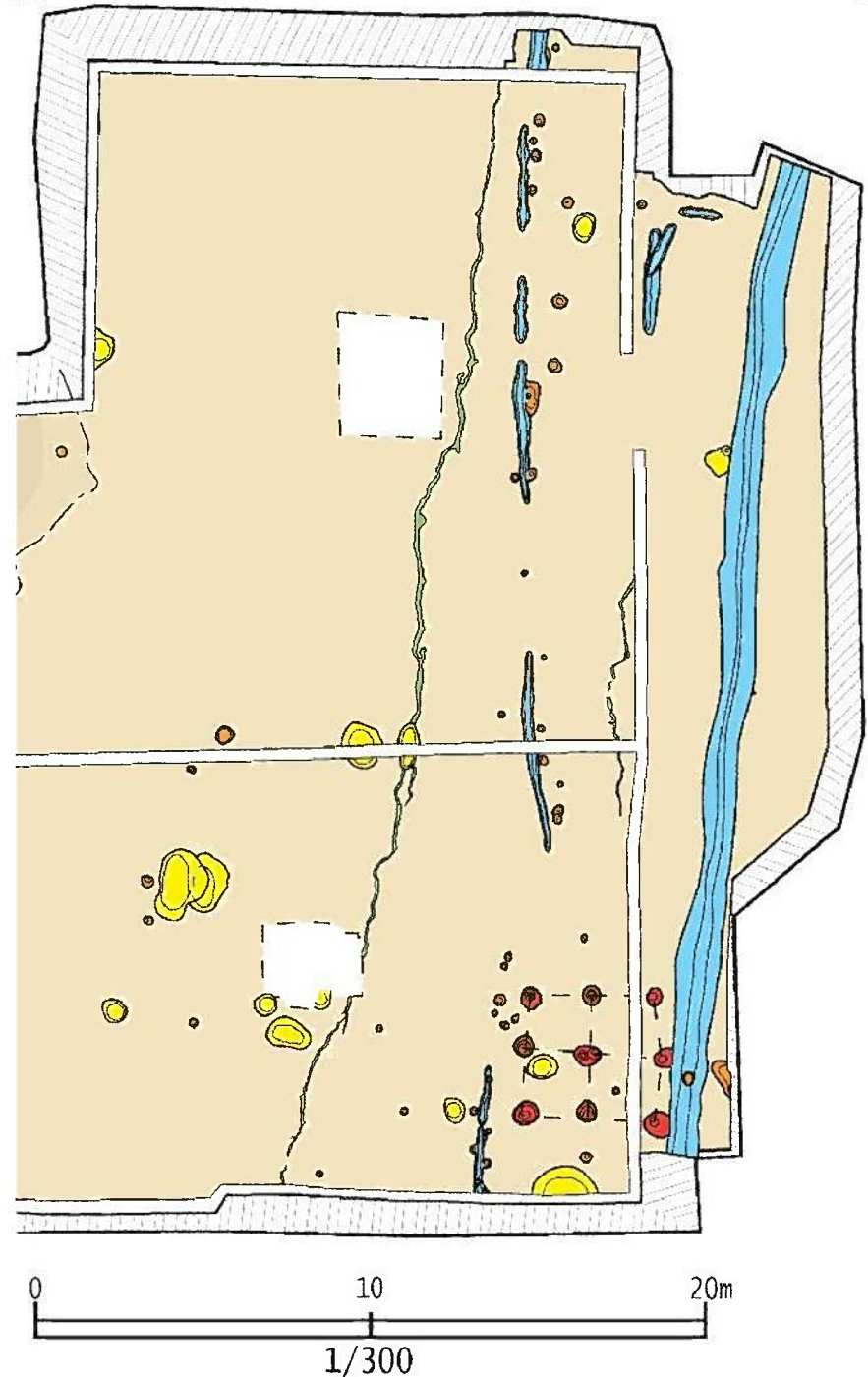
調査地東側

調査地東側では
掘立柱建物と土坑、
溝、柱穴が見つかりました

標高が高くなっており、
遺構も複数見つかったため、
村の本体は東側にあったと
考えられます。

（調査区の最も東側では過去の耕作や
工事の影響で遺跡が失われていました）

また、地震痕跡である
噴砂が確認されました

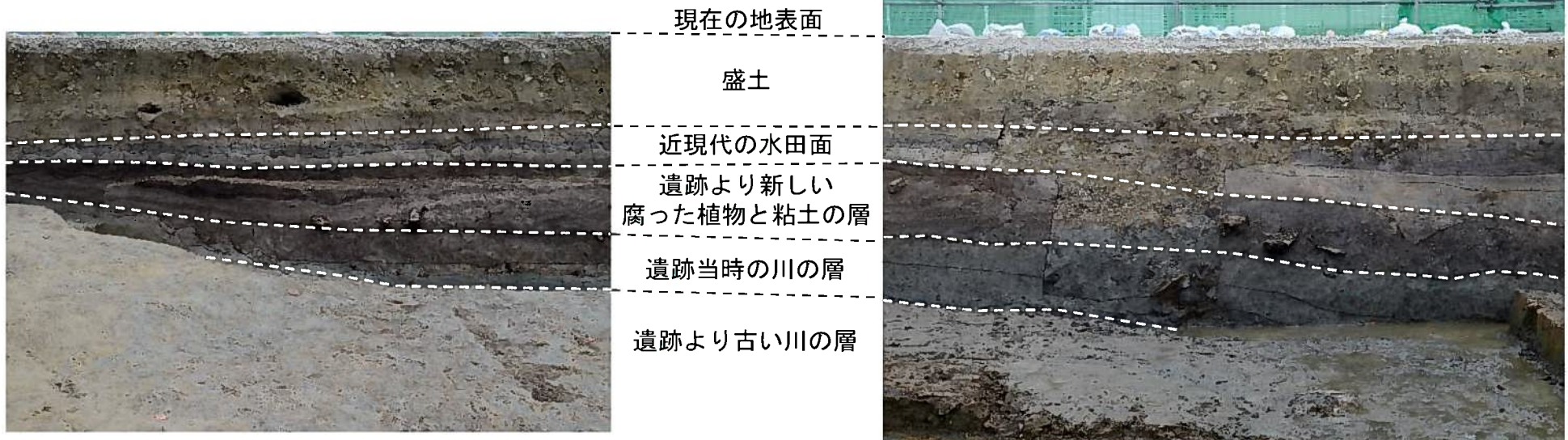


遺構① 川跡

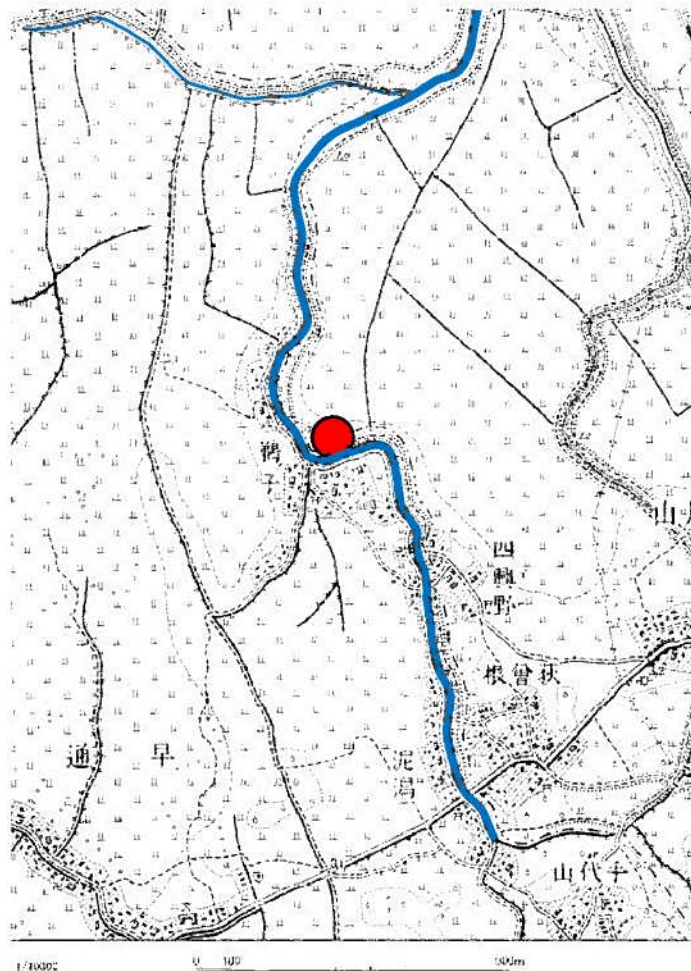
川跡からは古代の土器が
多数見つかりました

古代の土器の出る層の上には
腐りかけの植物が厚く堆積
（ガツボ層）していますが、
この層からは遺物は出ていません。

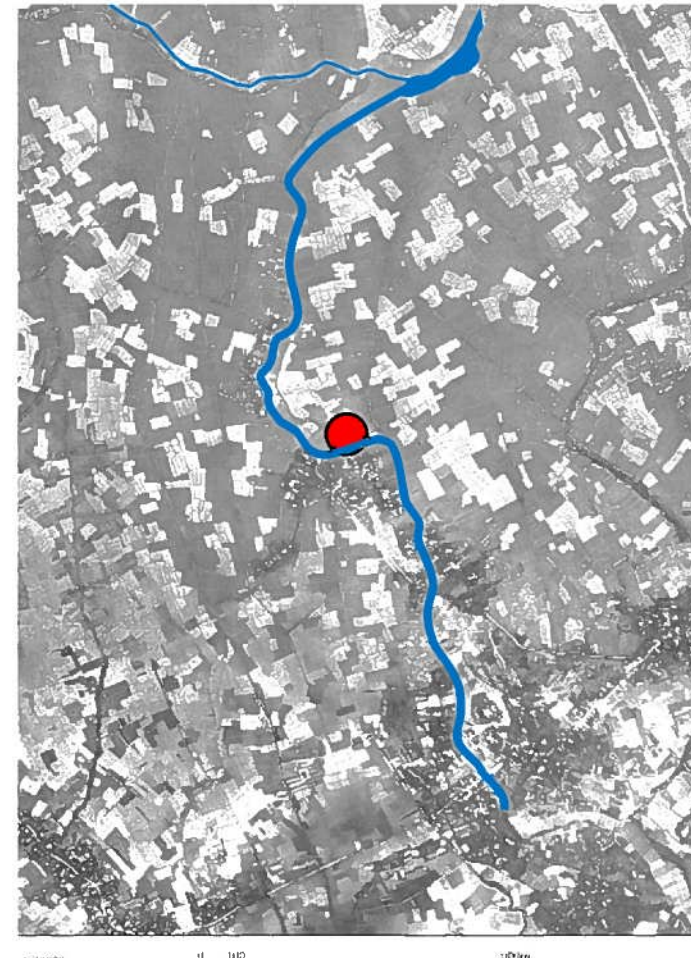
古代以降にも長いあいだ川として
存続していたと考えられます。



明治40年代の地図や、戦後米軍が撮影した航空写真にも遺跡のそばを南北に流れる川が写っています。川の流れるは多少変わりつつも、南の茅野山や城山から栗ノ木川へ流れる川が古代からあったのかもしれない。



明治44年測図
昭和6年修正
陸軍測地部作成
五万分一地形図



昭和23年
米軍撮影
空中写真

遺構② 橋脚



川跡からは橋脚が見つかりました。

遺構② 橋脚

放射性炭素年代測定では
Vb : 11~12世紀
VIa : 11~12世紀
VIb出土のクルミ : 7世紀

えぐれた跡
(まわりの土より
黒くなっています)



Vb 遺物のない層
(遺跡より新しい)

① VIa

古代の遺物が
出土する層

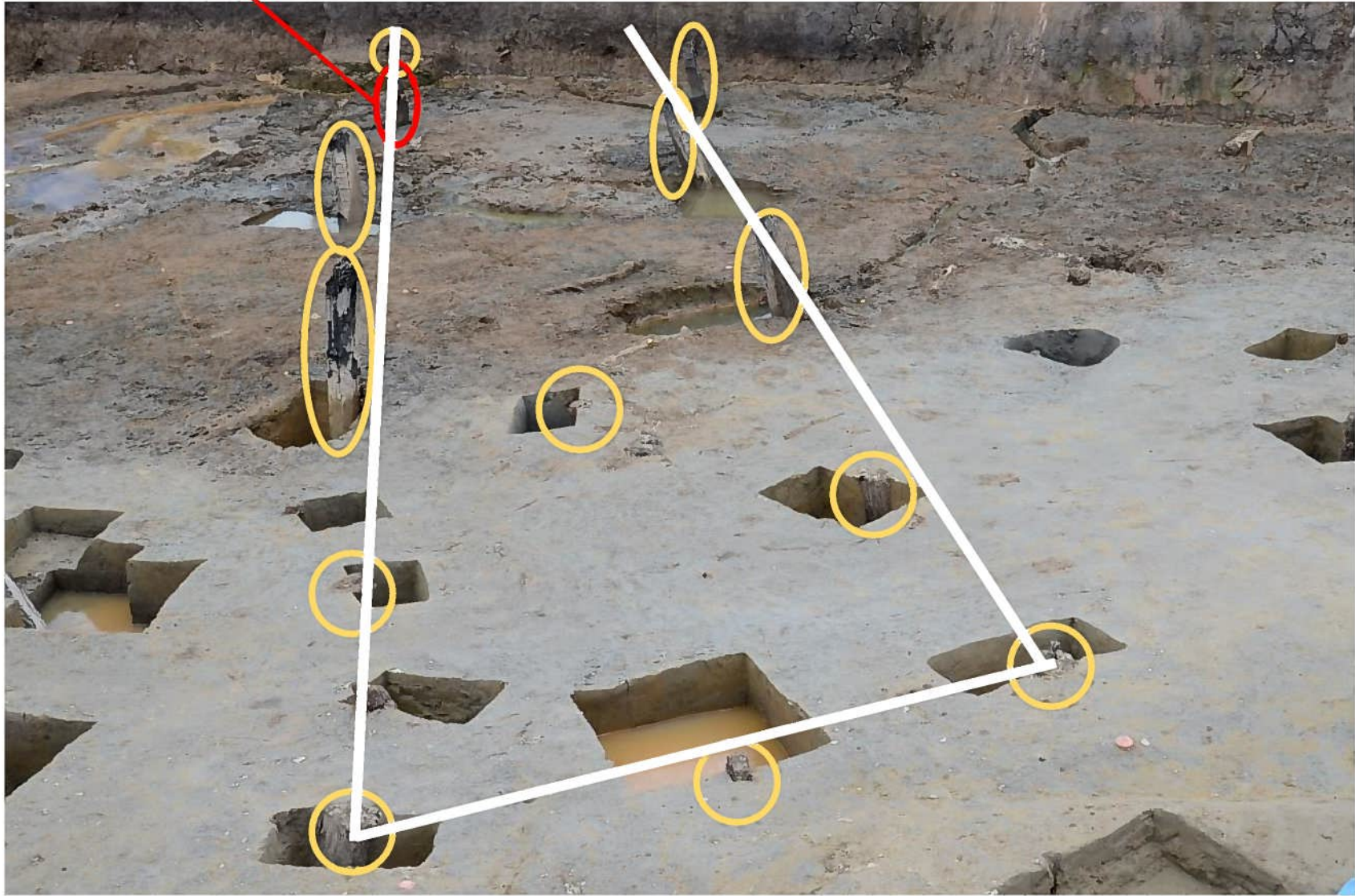
② VIb

③ VIc

VIIIa 遺物のない層
(遺跡より古い)

柱はそれぞれどのように周りの土が堆積しているか記録しました。

7世紀という分析結果の出たP105



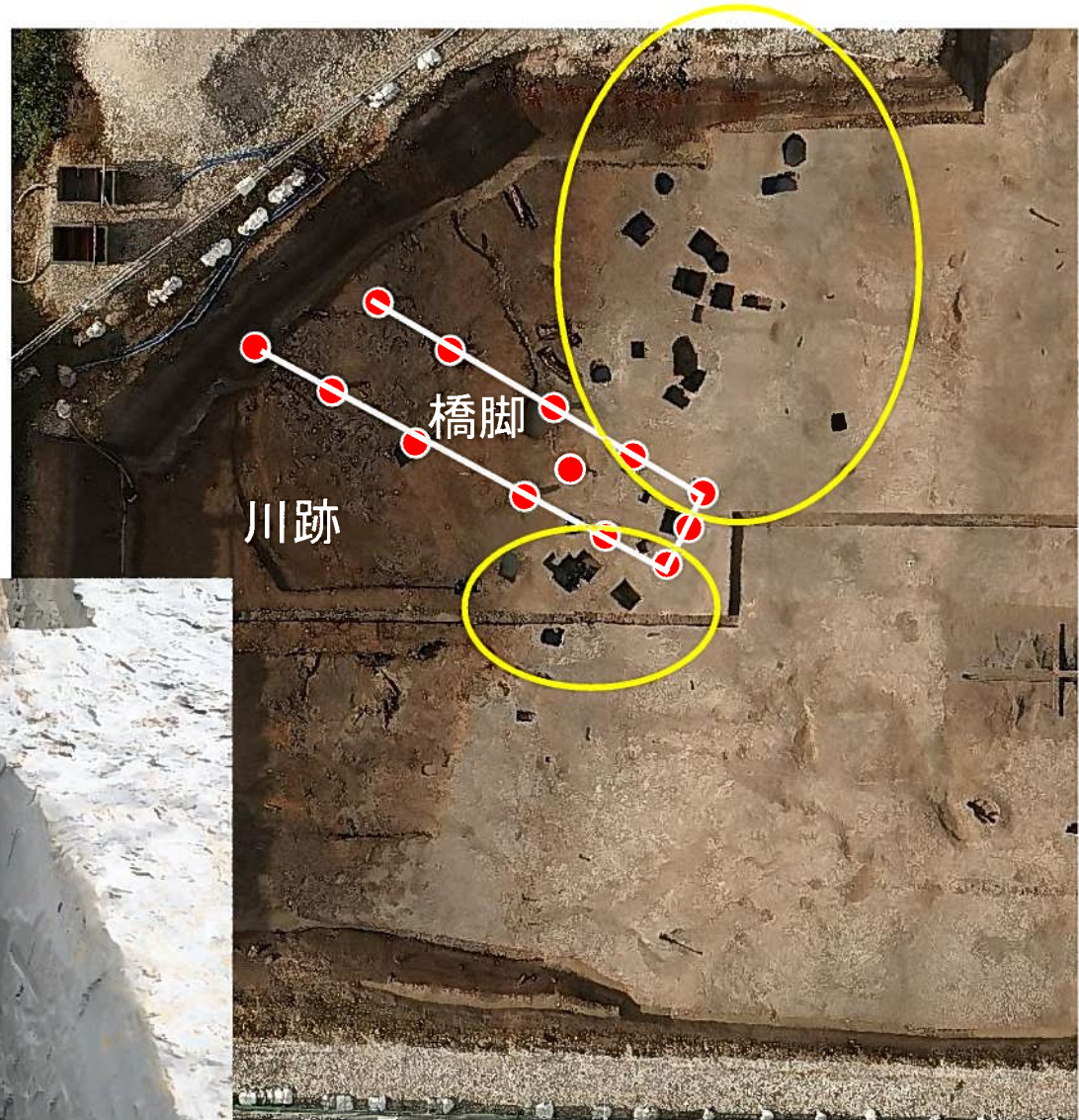
陸地側（写真手前）から川跡へ2列に並び、調査区外へと続くようです。



正面から見ると、左右の柱が「ハ」の字状に内側へ傾いています。

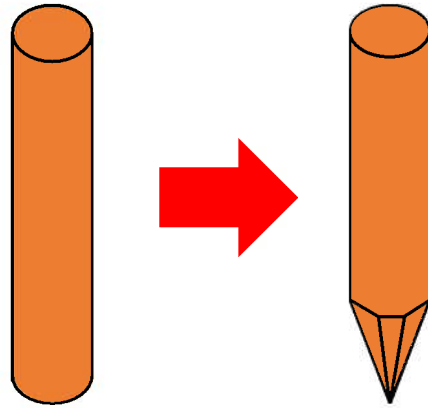
遺構③ 杭列

直径10～15cm程度の杭が
複数見つかりました

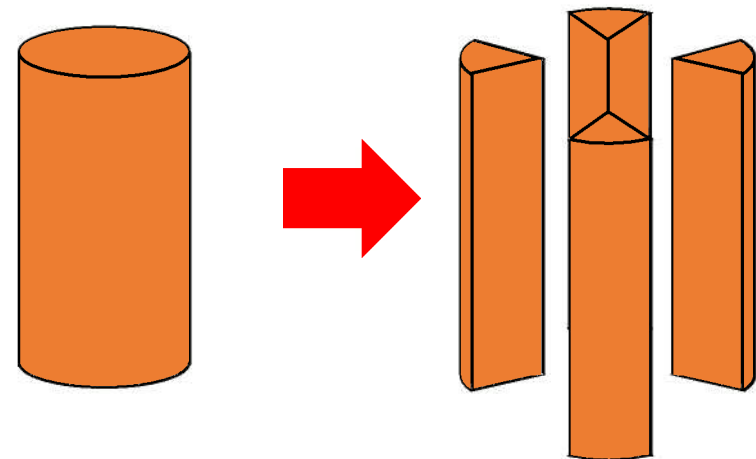


加工方法が統一されておらず、
木の種類も様々です

細長い木を先をとがらせて
そのまま使ったもの



太い木を縦に割った
三角形の断面のもの

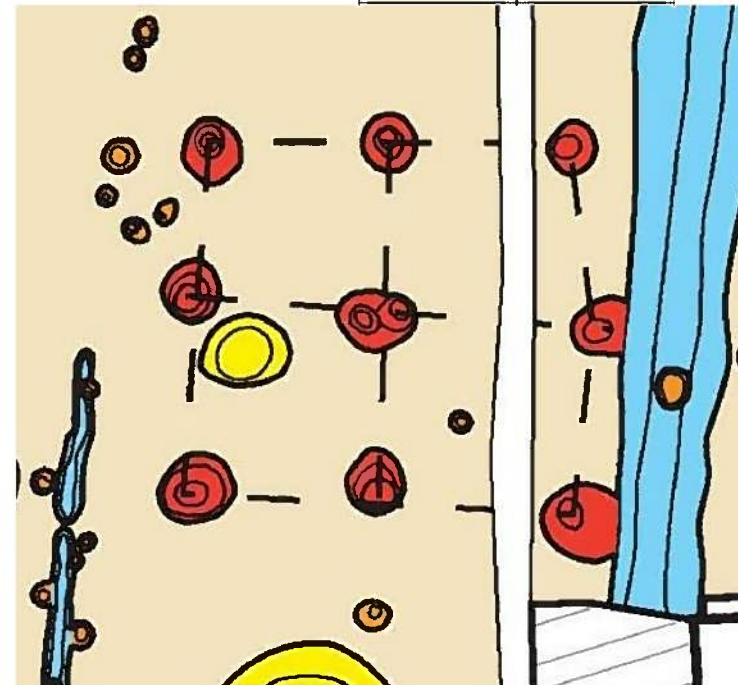
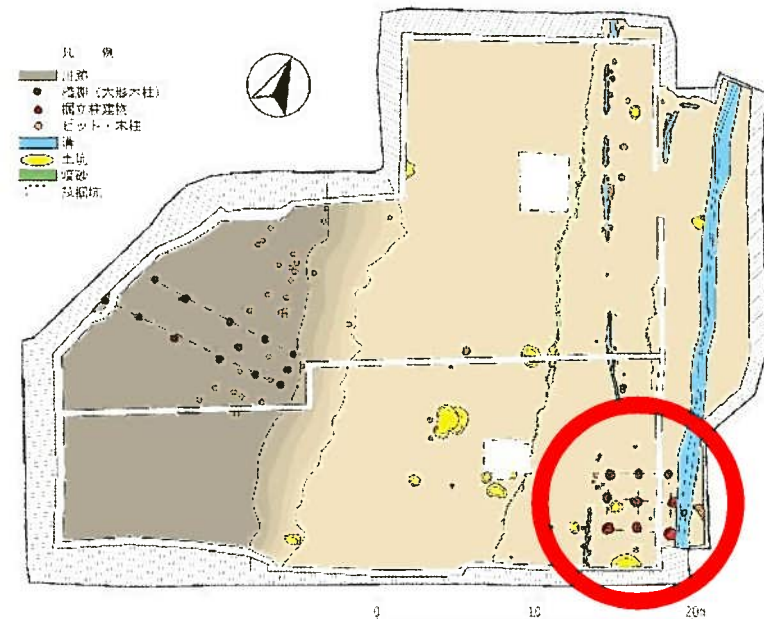


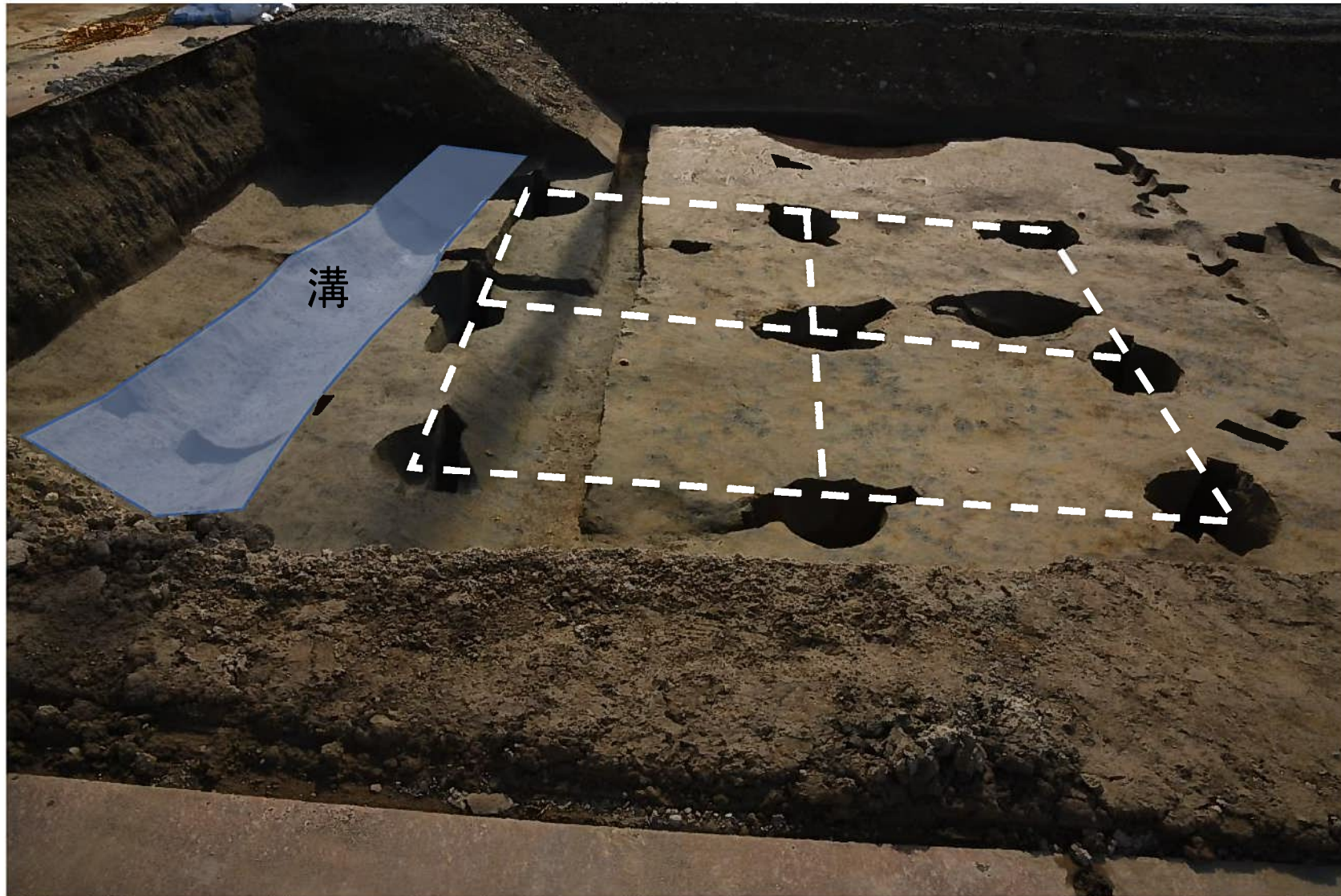
遺構④ 掘立柱建物

調査区南東では掘立柱建物(SB43)が見つかりました。碁盤目状に柱を持つ総柱建物という構造です。

外周だけ柱のある構造に比べ、床の中央にも柱があるため、より重量に耐えられる構造だと考えられています。

重いものを入れられる建物とすると、倉庫のような利用がなされたのかもしれませんが。





柱穴の一部は東側の溝に壊されており、溝よりも古い建物と分かります。

遺構⑤ 溝

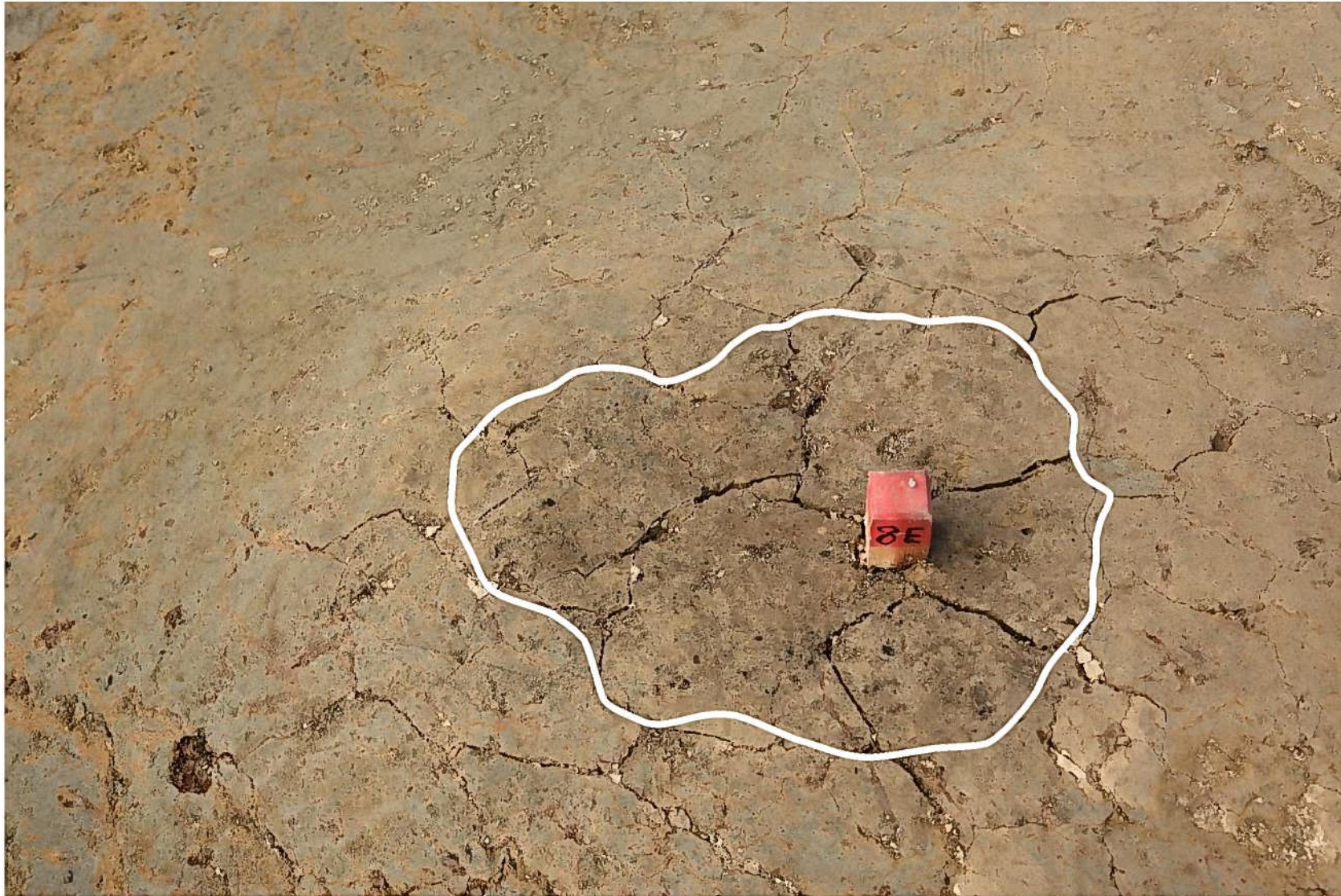


調査区の最も東で見つかった溝 (SD69) です。



写真(SD9)のように浅い溝も複数見つかりました。一部は柱穴を伴います。

遺構⑥ その他の遺構



周りの地面より黒っぽい色をした土坑 (SK15)

遺構⑥ その他の遺構



土師器の甕の破片がまとまって出土した（遺物包含層）

遺物 土器について

土師器（はじき）・・・野焼きで焼いた土器

須恵器（すえき）・・・窯で焼いた土器

だいたい同じくらいの出土量

杯（つき）
杯蓋（つきふた）
椀（わん）

個人が食事に使う
食膳具（しょくぜんぐ）

8割近くを占める

甕

煮炊きを使う
煮炊具（しゃすいぐ）

少ない

壺
横瓶

ものの保管に使う
貯蔵具（ちょぞうぐ）

少ない

土居内遺跡では、土師器と須恵器がだいたい同じくらいの割合で出土しましたが、食膳具が圧倒的に多いです

遺物 土器について

土師器

- ・ ・ ・ 杯がほとんどで、甕は少数出土



杯（つき）



甕（かめ）

遺物 土器について

土師器



杯の一部は
赤く塗られています

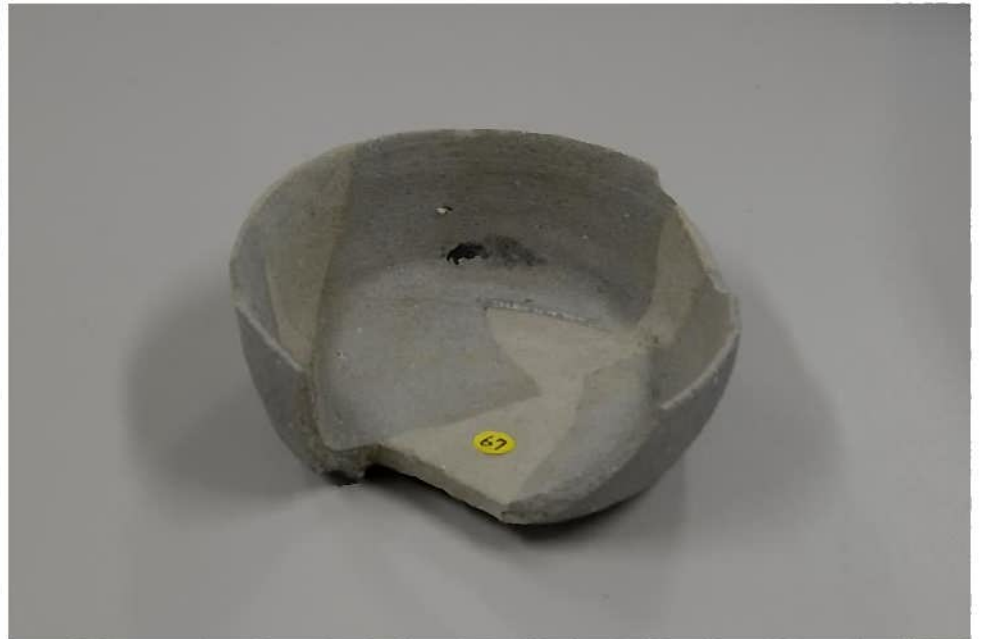
遺物 土器について

須恵器

- ・ ・ ・ 杯と杯蓋がほとんどで、壺と横瓶は少数



杯



杯

ほとんどが奈良時代のものです

遺物 土器について

須恵器のへら記号



×



大



遺物 土器について

文字に関連する土器



ぼくしょ
墨書土器

介



てんよう けん
転用硯

すずりに転用した

遺物 木製品について

木簡



木簡の形状から、荷物につけた札（荷札）

□
ア = 部] . . . 氏を示す（1文字目は不明）
白] 戸主（へぬし）の名前
髪]
戸] 戸の構成員を示す
口]

国一郡一里 という
律令制での行政区画において
里は50戸からなり、
戸は戸主と戸口から構成される
戸口の名前は不明だが、戸主は「白髪」

遺物 木製品について

小型木製品



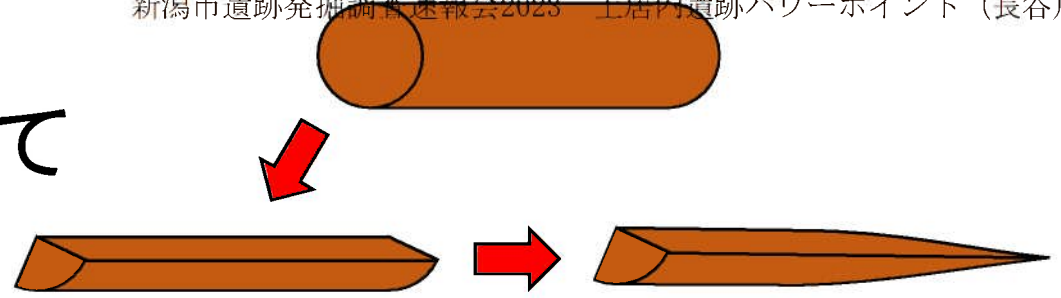
箸（はし）



曲物底板

遺物 木製品について

橋脚木柱



土居内遺跡の性格について

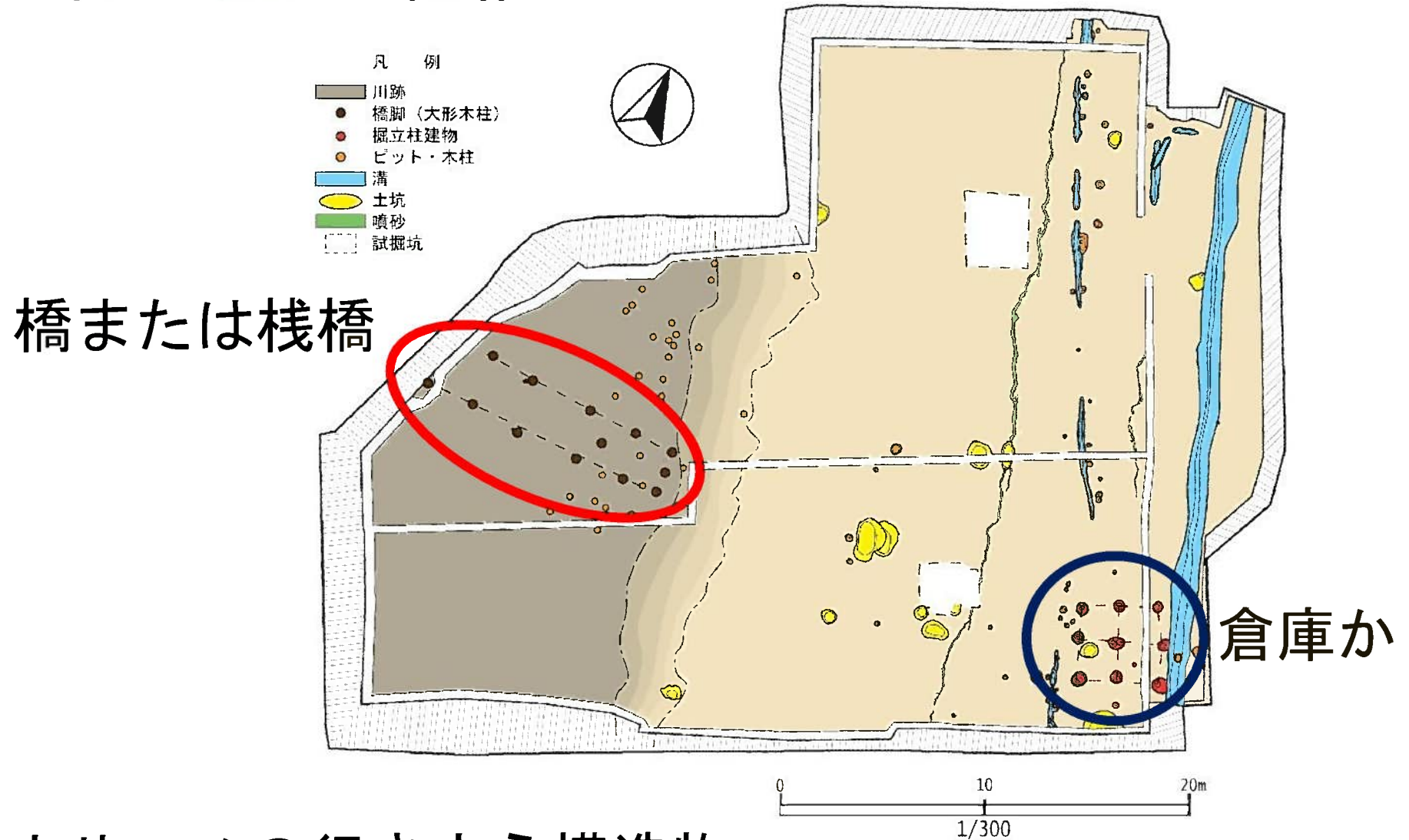


川跡

土居内遺跡の性格について



土居内遺跡の性格について



- 人やモノの行き交う構造物
- モノを保管する建物



駒首潟遺跡のテラス状遺構

明治44年測図昭和6年修正
陸軍測地部作成二万五千分一地形図を加工

駒首潟遺跡 (平安時代)

- 荷揚場と報告された川沿いのテラス状遺構が見つまっている

旧亀田町の船場 (現在も東船場という地名が残る)

- 江戸～昭和にかけて栗ノ木川の船着場として機能した

土居内遺跡も川や潟湖を介した水上交通と関連した遺跡か
→橋脚は船着場の棧橋という可能性も考えられる

